

企業の課題解決に挑戦

産学金官連携
プロジェクト 岐阜大生が実習開始

岐阜大工学部の学生が県内企業を訪れ、課題解決に挑む実習が20日スタートし、岐阜市柳戸の同大で出発式が行われた。

県が産業界や大学、金融機関と連携し県内企業の高度技術者らの確保を支援する「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」の目玉事業。工学部機械工学科の3年生がナベヤ(岐阜市)や黒田製作所(羽島郡岐南町)、秋田屋本店(岐阜市)など製造業者13社に分かれて来年1月までに10回程度の実地演習に臨み、新商品の開発や生産ラインの改善などに取り組む。

この日は学生160人が8台のバスに分乗



出発式で岡本知彦会長(右)から記念品を受ける工学部の学生＝岐阜市柳戸、岐阜大

して各企業の工場を見学し、経営者らの講話を聞いた。出発式では、先は特徴ある技術やビジネスモデル、マネジメントシステムを持つ。スピード感と温かみのある経営のダイナミズムを感じ、就職の選択肢にしてみらえた」と期待し、学生の代表に記念品を贈った。

た。
同学科3年池戸悠介さん(21)＝岐阜市＝が「日本の工業分野を担う心意気で参加し、経験を今後の糧にした」と抱負を語った。
(小森直人)